

今日のトピック 2015年のユーロ圏経済の見通し

デフレを回避し、景気は持ち直しへ

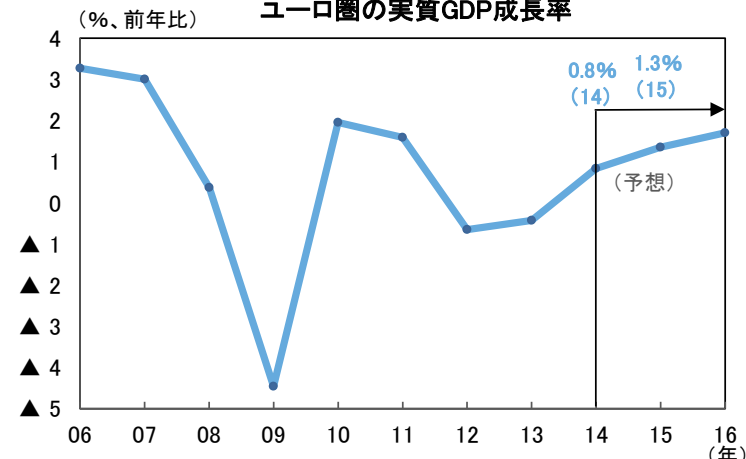
ポイント1 2014年は緩慢な回復

物価は下振れ、デフレ懸念強まる

■2014年のユーロ圏経済は、欧州債務危機で混乱した2013年から緩やかに回復しています。しかし、ロシアや中東などの資源国・新興国の景気減速の影響を受け輸出が伸び悩んでいます。雇用環境の改善も緩慢で、消費や投資などの内需も勢いを欠いています。

■内需減速や原油価格の下落を受けて、物価上昇率は大きく低下しています。ECBは金融緩和を強化してきましたが、目標とする2%近くには届かず、デフレ懸念が強まっています。

ユーロ圏の実質GDP成長率



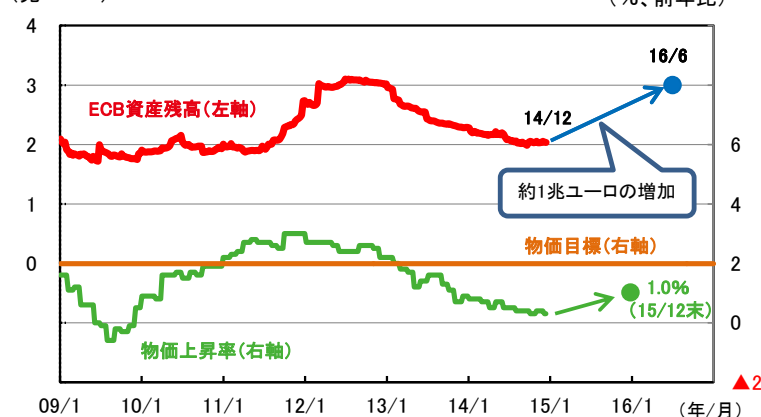
(注) データ期間は2006年～2016年。2014年以降はIMFの2014年10月末の予測。
(出所) IMFのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 2015年は緩やかに持ち直しへ 企業収益回復が投資に波及

■2015年の景気は、+1.3%程度の成長への緩やかな持ち直しが予想されます。外需に期待が持てないなか、原油価格などの下落から企業収益が増加し、投資が緩やかに回復すると見込まれます。また、家計の購買力は強まるものの、雇用の改善は緩やかで、個人消費の回復は緩慢となる見通しです。

■内需の回復が緩やかで、エネルギー価格の下落の影響もあり、物価上昇率は1%程度にとどまる見通しです。

ECBの資産残高と物価上昇率の推移



(注) データ期間はECB資産残高は2009年1月2日～2014年12月12日。2016年6月はECB目標。物価上昇率は2009年1月2日～2014年12月12日。2015年12月末の物価上昇率の1.0%はIMFの2014年10月時点の消費者物価上昇率の予測。ECBの物価目標は2%近くで2%を上回らない水準。
(出所) IMF、Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 ECBは国債買い入れへ、EUによる投資拡大は景気上振れ要因

■内需の回復が緩やかなため、ECBは金融緩和強化により、景気刺激とデフレ懸念払拭に努めることが予想されます。2016年6月までに目標とする1兆ユーロの金融緩和を達成するために、現行の資産購入は社債や国債に拡大されると見込まれます。

■財政の制約が厳しい各国政府に代わって、EUが

投資を拡大する計画があります。計画の実現性には不透明な点もありますが、「欧州戦略投資基金(EFSI)」を通じた投資が軌道に乗るようであれば、景気の上振れ要因と思われます。

■為替は、金融政策の方向性の違いから、ドルに対してはユーロ安方向、対円では方向感が出にくいとみられます。

ここも チェック!

2014年12月16日2015年のアジア(アセアン4、インド)経済の見通し
2014年12月10日「欧州戦略投資基金」で景気テコ入れ(欧州)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。